2024年10月3日

2023年度学校関係者評価報告書

エール学園
学校関係者評価委員会

エール学園学校関係者評価委員会では2023年度自己点検・自己評価表に基づき学校関係者評価を行いましたので、以下のように報告致します。

1 学校関係者評価実施概要

① 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属	属性
吉水 雄一	株式会社OSコンサルティング 代表取締役	企業・業界団体関係者
原田 智樹	株式会社アーストレック 代表取締役	卒業生 企業・業界団体関係者
牧 文彦	NPO 法人ディープピープル 理事長	企業・業界団体関係者
中澤 修	株式会社ケイティエス 常務取締役	卒業生保護者
内山 雅文	大阪 YMCA	在校生・卒業生の出身学校

② エール学園参加者

氏名	所属	属性
長谷川 恵一	エール学園 総長	総長
萩原 大作	エール学園 副総長	副総長
崎村 真	エール学園 理事長	法人代表者
木田 明美	エール学園 副理事長	法人本部事務責任者 事務局担当
木村 多恵子	エール学園 校長	学校代表者
豫城 聖子	エール学園 募集開発事業本部 本部長	学生募集運営責任者
田中 雅彦	エール学園 応用日本語教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者

西村 康司	エール学園 キャリア教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者
濱田 久美子	エール学園 日本語教育事業本部 本部長	日本語教育学科運営責任者
増田 政広	ICT 教育事業本部 教育開発事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者
岡本 翔太郎	エール学園 キャリア教育事業本部 室長	専門教育学科教務部門責任者
任 滸龍	エール学園	卒業生 同窓会会長

③ エール学園学校関係者評価委員会次第

学校関係者評価日程		
日 時：2024年8月30日（金） 10時00分～12時00分		
場 所：エール学園1号館4階 大会議室		
会議名：エール学園学校関係者評価委員会		
会議次第		
時間	項目	担当者
10時00分	1. 開会挨拶	長谷川総長
10時10分	2. 委員紹介	事務局
10時20分	3. 2023年度自己評価結果全体について ・自己評価結果概要説明 ・専修学校における学校評価ガイドラインに 基づく評価の大項目別の概要説明 ・各学科の活動状況報告及び進路状況につ いて	学校側各担当者
11時20分	4. 質疑応答／意見交換	各委員より発言
11時40分	5. 結果とりまとめと公表計画について	事務局
11時50分	6. 閉会挨拶	木村校長
参考資料		
1 2023年度エール学園自己点検・自己評価結果報告書		
2 学校パンフレット一式		
3 新年度学則（2024年度学則）		
4 学科別在籍状況及び卒業及び進路状況資料		
5 2023年度財務状況資料 決算概要		

2 外部委員より頂いた意見・評価

評価項目	評価・意見
教育目標と重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の国際化が今後日本の多くの教育機関が事業課題となる中 で、同校はその先鞭をつけ卒業生の進路実績からも実績を残している。また同校教育理念・目標を学校職員が理解し、日々の教育活動で学生に浸透させているため、学生卒業後は学生それぞれの事業環境の中で同校理念を意識した社会事業活動を行うことで各ビジネス業界でも教育理念を伝播する好循環を生んでいる。また新専門学校の新設からより多くの学生が同校の理念にふれ、将来ビジネス業界で活躍することが期待できる。 ・教育目標と重点目標の具体的な実践がうかがえる。 ・学校の理念と教育目標が明確になっており、周知できていると思われる。2023 年度も具体的な成長目標に重点的に取り組まれている。 ・1、平和の使者。2、多文化共生。3、なりたい自分とつくす自分の3つが目標で他者への配慮があるのが良い。つくす自分は、留学生には判りにくいのでは。つくす自分は英語又は母国語でも伝えるのはどうか。 ・掲げた教育目標にメンタリングシステムを用いて実践することで成果を上げておられる。
基準1 教育理念・目的・育成人材等	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい自分」「つくす自分」同校理念は外部講師にも浸透しており、理念を意識した教育が行われている。また学生の卒業後の期待である就職、進学など全ての KPI が達成すべき数値目標の設定がなされており、理念という概念を数値化していることも特徴であり、学校理念の実行が学生の目標達成に直結している。【課題・提言】学生数増加により新規外部講師が増える中で同校理念の理解浸透がこれまでと同様に測れるかに注視する。 ・理念表出が常に意識化され努力されている。 ・学校の教育理念、教育の目的、育成人材像はいずれも明確になっており、さらに本学園の専門分野の特性が盛り込まれていると思われます。 ・目標、理念は定められ明文化されている。周知もされているが、学校の会議室、教室等に、目標理念を書いた額を掲げるのはどうか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念と教職員様が一体となった活動が成果を生んでいる。
<p>基準2 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数が 2023 年度（11 月）と比較して約 34%増加する中で、学生の留学目的・目標が多様化した学生が入学することは確実と考える。入学全学生の期待に応えることは同校の価値使命でもあり、今後一層多国籍、多様化する学生の期待実現に向けて同校運営実績はそのためのノウハウを有していると評価する。【課題・提言】世界経済が急速に進化・変化している中で学生の入学目的も従来の就職・進学以外にも広がってきていると考える。そのような学生の変化する期待以上の講義の進化が今後ますます求められると考える。また講師間での講義共有など講義ノウハウ共有は講義進化のために必要不可欠となるため、講師間共有のインフラ化充実も一つの手段と考える。 ・事業計画の落とし込みがなされている ・教育理念、目標に沿った運営方針、事業計画、組織運営がなされている。教職員の育成、評価に注力されている。 ・教育理念沿った運営がなされている。学生数もコロナ禍の 1100 人から 1400 人台に回復している。 ・長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準3 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学内講義は企業人講師も多く担当する中で理論、机上論中心の講義ではなく、講師経験値に基づいた実践的講義が行われている。また 2 年時には学外講義としてインターンシップを教育カリキュラムに入れているため、学内で学んだ知見・知識を学外でも体现できる教育制度を有していることも同校の特徴であり、他校とは差別化できる価値である。また定期的に学生からの講義評価をアンケートの形で実施することで講義のブラッシュアップ、講義内容の新陳代謝にも寄与している。【課題・提言】特にビジネス講義では講師の経験、知見に基づく講義が価値を生む一方、同一講義のノウハウ共有が講義情報管理の点で難しい点もあるが、基準2の課題同様に講師間で情報共有できる場があればよいと考える。またインターン時の企業対応にも差があるため学生からのヒアリングを通じ、学生からの要望があれば適宜インターン先の見直しや改善なども学生の期待に応えるものとなると考える。 ・社会ニーズとのマッチングを積極的に実践されている。外部連携が教務としての KGI の全体像。 ・各学科の教育目標、人材育成象に沿った高い教育活動が行われている。

	<p>課題にあげられている外部関係者の意見を取り入れる仕組みの構築が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育活動が、メンター制度の中、カリキュラムとシラバスでしっかりなされている。 ・長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準4 教育成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的評価にもあるとおり同校の強みとして民間企業就職者が多く卒業生との交流の機会を積極的に設けていること、また学生が就職活動をする際にも卒業生から話を聞いた上で、入社意思決定できる点なども同校にしかない価値であると考え。また在校中も企業と交流できる機会（イベント・交流会）などは随時主催されており、学生から企業に自分の考えを発信できる場が充実していることは学生の気づき、成長につながると評価できる。【課題・提言】学生数が増加する中で、潜在的に企業と交流することを希望する学生も多く、その潜在需要を見過ごすことがないか、学生の現状について職員、講師間で共有するインフラがあれば潜在需要を抱える学生を見過ごすさなくなると考える。 ・アウトブットではなくアウトカム重視がうかがえる。 ・高い就職率、難関国公立大学・大学院への進学実績を維持しています。資格、免許取得のための指導も図られています。 ・種々な方向から成果が図られている。進学率、就職率も大事だが、途中挫折者が無く、全員卒業すればまずは、100%の成果と言えるのではないか。 ・長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同校はメンター制を敷いているため、メンター（担任）と学生との情報共有はしっかりとしている。また学生の相談記録についても「学生カルテ」にて管理し、講義も毎回講師日誌を講師が提出しているため学生の学内外の情報を把握した上で、学生の課題に即した学生支援を行っている。【課題・提言】個人情報の範囲でもあるので規定が必要になるが「学生カルテ」を講義担当講師でも閲覧できるインフラなどがあれば、講義時には感じない学生の可能性、課題を理解することができると思う。 ・在学中の多様な支援が実践されている。卒業後のネットワーク作り、支援体制の整備が望まれる。 ・就職・進学指導のサポート体制、奨学金や生活支援などの体制も整備さ

	<p>れています。卒業生への支援、同窓会組織の再構築が強化されれば在学生の支援につながるものと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトの世話、寮の設備、駐輪場の整備等、支援は充実している。又メンター制度の充実で、学生支援につながっている。 ・長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。 <p>国籍の多様化に対応するための「指導の多様化」に対応するには一定のコストがかかるが、理念実現への未来投資費用として今後も実行できるかが鍵ではないか。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学外教育活動として同校の特徴であるボランティア活動、インターンシップなどは学生に講義時の知識習得以外の気づき、成長を与える場であり、学生も学外教育活動は同校の強みと認識して入学をしている。学校の教育方針と入学動機（目的）が合致しているからこそ学生の満足度にもつながっていると考えられる。【課題・提言】施設・設備にもあったとおり図書施設など書籍文献によるインフラについて特に日本語力が弱い学生には目視できるツールとして必要性を感じる。留学生はビジネス講義では書籍をテキストとして求めるケースもあり各講義で講師が推奨する書籍などを案内するシステムなどがあれば仮に書籍を学内で保管しなくても学生の期待に代替できると考える。 ・ともすれば教育環境としては好ましくないと捉えられがちな繁華街という地域性を、逆に優位性として生かしている。 ・学外実習、インターンシップ等の教育体制の整備、防災、安全管理体制も整備されています。図書館資料の整備が期待されます。 ・学校校舎は近くに集まって整い、老朽部は順次リホームされて良い環境がととのっている。学業境も学内はメンター制度、学外はインターンシップ、ボランティア活動等で良く整っている。 ・長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準7 学生募集と受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生の募集、学生受け入れについては同校の実績があるため今後社会需要に応じ、ますます多国籍学生の受け入れに付与できると考える。また日本人学生の受け入れ、募集についても今後の改善方策として明記されているため、外国人留学生と日本人学生が同講義で学ぶには課題も多いと考えるが大学では一般的になっている中で、同校にしかできない価値の提供を期待したい。【課題・提言】障害のある学生に対しても合理的配慮などを講義時にも徹底することで一人一人の学生の状況に応じた受講環境ができると考える。一方で保健施設の設置の必要性もあるため拙速に

	<p>展開できない現状もあるため将来の学生需要に応じて展開を期待したいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS での発信(特に海外向け)の強化の必要があるのでは ・ 受入れ方針に基づいた学生の募集活動に注力されています。 ・ 公正かつ公平な募集活動がなされている。今年度からできた ICT 校の次年度に向けた募集に注力する必要がある。 ・ 長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準 8 教育の内部保障システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連法令・設置基準等の遵守は実績のある学校でもあるためしっかりと管理されているため問題点はない。【課題・提言】今後学生数がますます増加が予測される中で学生の情報管理、また就職先の企業情報管理などについて情報管理の徹底が必要と考える。特にランサムウェア危機が高まる現代において卒業生の情報を含めて個人情報管理徹底が一層必要になる。 ・ 関係法令、設置基準等を遵守し、学校評価の実施、情報公開等、適正な学校運営がなされています。 ・ 関係法令が順守され、コンプライアンス体制が機能している。又、学校評価の自己評価、外部委員の評価制度も機能している。 ・ 長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準 9 法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務状況は引き続き盤石で直近自己資本比率も約 60%、流動比率も約 175%と財務状況は高位安定している。収支についてもすべての項目で予実差がなく期初目標を達成しているため、予実進捗にも問題がない。 ・ 財務基盤は安定しており、予算・収支計画に基づいて適正に執行管理されているものと思われます。 ・ 中長期的な教育活動に必要な財政基盤は安定している。預貯金はもっと増やしていただきたい。 ・ 長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。
<p>基準 10 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同校の特徴でもあり付加価値でもあるボランティア活動など地域活動が、コロナ規制が緩和される中で社会貢献・地域貢献として寄与している。また多くの大学などが実施している職業訓練・公開講座についても現在企画段階にあるということで今後活動予定により社会貢献・地域貢献

	<p>活動として期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非財務情報開示に向けてのプロセスを明確にされたい。まずはエシカル消費の実践を期待する ・学生のボランティア活動の奨励がされていると思われます。地域の企業や団体との連携・交流などが期待されます。 ・社会、地域貢献で地域の清掃、小学校の帰国子女への支援派遣、高齢者地域へのボランティア活動等が地域の評価につながり、学校の知名度アップになっている。 ・長年の継続的かつ独創的な取り組みが地域の方々の意識改革にも影響し、素晴らしい成果を生んでいる。
<p>基準 1 1 国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの大学との教育連携の強化、新専門学校の開校などますます海外門戸が広がり、国際交流の起点となることが期待できる。同校理念に共感する理解者を増やすことを目標にした国際交流は交流を通じて国際発展に資する取り組みと高く評価できる。 ・積極的に外部との繋がり、連携、協働がはかられている。 ・留学生が中心の学校運営であることから多様な国からの受入れ、学習・生活支援、在籍管理体制が整備されています。 ・留学生の受け入れが既に国際交流であり、学生の受け入れは充実している。大変だが卒業後、帰国した学生との国際交流が出来たら良いのだが。世界のトップ大学との交流をもっと進めていただきたい。 ・長年の継続的な取り組みが成果を生んでいる。

3 まとめ

エール学園では、自己点検・自己評価とそれに基づく学校関係者評価での意見・評価を今後の学校運営の改善に活かす努力を続けるべく、ここにこの結果を公開致します。

また、継続的に自己点検・自己評価→学校関係者評価のPDCAサイクルで教育の質向上に努力する所存です。

以上